

2024年度（第4回）日本地理教育学会出版文化賞選考結果報告
(2024.8.24.)

出版文化賞選考委員会

『みんなの地図帳—見やすい・使いやすい—（初訂版）』帝国書院

2024年2月17日発行

日本視覚障害社会科教育研究会 編

授賞理由

本書は、視覚特別支援学校（以下盲学校とする）の社会科教員でつくる日本視覚障害社会科教育研究会（2007年発足）が、2019年に出版した『みんなの地図帳—見やすい・使いやすい—』の初回改訂版として2024年2月17日に刊行された地図帳である。地図帳の種類としては一般図に相当し、本書の構成と使い方、日本地図28枚、世界地図47枚（初版39枚）と別冊の索引から成る。

本地図帳は、長年にわたる盲学校教員の研鑽から生まれたものである。すなわち、それまで盲学校で使われてきた点字地図を点検・情報を厳選して点字使用者用の『点字版基本地図帳』（2008年、視覚障害者支援総合センター）をまず完成させ、それをトレースしたものを基に作成した弱視用の『拡大文字基本地図帳』（2013年作成開始～2016年完成）が本書の元である。もともと盲学校の教室での併用を想定したもので、①視覚障害教育、②地理教育、③情報保障などの多角的な観点で検討を重ねたという。①地図にある情報量の抑制・精選、②地図帳の色や線の識別の明確化、③地図の全体像の把握、④各地図の基本的な使い方の共通化に配慮されているなど、視覚情報を抑制しながらも、必要な情報をできるだけ損なわないで使用できる工夫が随所から読み取れる。このような編集方針が、視覚障害のある児童・生徒ばかりではなく、結果的にさまざまな学習上の困難をかかえる児童・生徒にとっても使いやすい・わかりやすい地図帳として認識されるようになった。

社会科の学習において、地図を読みこなし、そこから得られる情報を基に思考することが不可欠である。本書は、これまで地理教育の対象に含むことができなかった児童・生徒も積極的にその対象にしてきたこと、一般的な出版ルートに乗り、さまざまな学習上の困難をかかえる児童・生徒の手に行き届きやすくなったこと、しかもそれが改訂されて継続的に出版されていることの今日的意味や意義から、日本地理教育学会の2024年度の出版文化賞としてふさわしいものと判断した。

編者一覧（五十音順、所属は出版時のもの）

青松利明（筑波大学附属視覚特別支援学校）
江口美和子（元埼玉県立盲学校）
大財 誠（広島県立広島中央特別支援学校）
柿谷愛子（東京都立文京盲学校）
柏倉秀克（桜花学園大学）
河出充展（岐阜県岐阜盲学校）
佐藤 桂（秋田県立視覚支援学校）
佐藤信行（筑波大学附属視覚特別支援学校）
佐野由貴子（東京都立墨東特別支援学校）
嶋 俊樹（筑波技術大学）
染谷 彩（埼玉県立特別支援学校塙保己一学園（県立盲学校））
丹治達義（筑波大学附属視覚特別支援学校）
奈良岡 歩（埼玉県立川口特別支援学校）
深津冬惟（埼玉県立特別支援学校塙保己一学園（県立盲学校））
保坂 亨（岐阜県立岐阜盲学校）
三宅洋信（筑波大学附属視覚特別支援学校）
村山 彩（筑波大学附属視覚特別支援学校）
森 まゆ（広島大学大学院）

デザイナー：早野由希

発行：株式会社帝国書院